

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 8 (2026) 年 8 月号

編 集 武田 隆久
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 事業部教育 1 課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/>

受付時間 10:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日 毎月 1 日

DX 時代の診療情報管理士に求められる価値創造

村上玄樹

DPC コース小委員会 委員

産業医科大学 情報管理センター 副センター長・准教授

令和 8 年度診療報酬改定においても、医療 DX の推進は重要なテーマとなっています。電子カルテ情報の標準化・共有、医療情報の利活用が進む中で、診療情報管理士の役割は一層重要になっています。

こうした DX を理解するうえで重要なのは、IT 化との違いです。IT 化が業務効率化を目的とするのに対し、DX はデジタル技術等を活用し、新たな価値を創造することを目的としています。単なるシステム化ではなく、その先にある患者サービスの向上や医療の質向上を実現することが本質です。このため、学会や研修会などの企業展示で紹介されている多数の AI や DX サービスの中から、自院の課題解決や価値創造に真に有用な技術を見極める「目利き」としての視点が求められています。単に最新技術を把握するだけでなく、それを実運用に結びつける視点や構想力が求められています。

そのうえで、診療情報管理士には「翻訳者」としての役割がさらに期待されています。医療現場、システム、経営にはそれぞれ異なる言語や視点が存在します。例えば、現場では診療の実態が語られ、システムではデータ構造やシステムの仕様等が語られ、経営では指標や成果が語られます。これらをつなぎ、現場の課題をデータとして整理し、その知見を現場や経営へ還元する役割が診療情報管理士には求められています。この視点において DPC データは重要です。診療報酬請求のみならず、医療の質評価や病院経営、医療政策に活用される基盤である DPC データを正しく理解し活用する力は、これからの診療情報管理士にとって大きな強みとなるでしょう。

また、その前提として、質の高い診療情報の蓄積と活用は医療提供の基盤です。診療記録の正確性や標準化は、日々の業務の積み重ねによって支えられています。医師や看護師をはじめとする医療従事者が適切な情報を作成できるよう支援し、その精度を高めていくことも診療情報管理士の重要な使命といえます。こうした地道な取り組みが、将来のデータ利活用の質を大きく左右することになります。

システムはあくまでツールであり、目的ではありません。診療情報管理士業務指針にも示されているように、本質は診療情報の適切な管理と活用を通じた医療の質向上への貢献にあります。DX の種は特別な場所にあるのではなく、皆様の日々の業務の中に存在しています。皆様が、医療とデータをつなぐ翻訳者として新たな価値創造を担い、ご活躍されることを期待しています。